

Economic Indicators

発表日: 2025年1月31日(金)

鉱工業生産(2024年12月)

～10-12月期は2四半期ぶりの上昇も、一進一退の動きが続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
24年	1月	▲6.7	▲1.5	▲7.5	▲1.7	▲1.7	▲1.8	2.6	0.8	▲4.9	2.7	▲5.2	1.3
	2月	▲0.6	▲3.9	▲0.7	▲4.7	0.6	▲1.7	▲5.6	1.9	▲4.1	▲5.1	▲1.9	▲2.5
	3月	4.4	▲6.2	4.7	▲6.8	1.0	▲1.0	7.6	6.8	7.9	▲4.2	4.1	▲6.0
	4月	▲0.9	▲1.8	▲0.4	▲1.4	▲0.2	▲2.4	▲0.7	0.5	▲0.1	3.1	▲0.9	▲1.3
	5月	3.6	1.1	3.9	1.3	0.9	▲2.1	▲1.2	▲1.5	0.9	▲0.6	8.3	2.7
	6月	▲4.2	▲7.9	▲4.7	▲8.1	▲0.7	▲2.7	1.7	4.8	▲10.6	▲13.5	▲5.4	▲5.0
	7月	3.1	2.9	2.7	2.0	0.4	▲2.5	▲2.4	▲3.9	7.0	1.9	1.5	2.9
	8月	▲3.3	▲4.9	▲4.1	▲6.5	▲0.8	▲2.2	5.3	5.9	▲4.1	▲7.3	▲3.0	▲3.7
	9月	1.6	▲2.6	2.4	▲4.2	0.1	▲1.3	▲3.8	3.0	▲2.1	▲6.5	0.2	▲3.3
	10月	2.8	1.4	2.6	0.4	0.0	▲1.3	▲0.9	▲0.4	11.0	4.5	5.6	2.4
	11月	▲2.2	▲2.7	▲2.5	▲3.6	▲1.0	▲2.2	3.2	2.7	▲2.4	0.5	▲2.5	▲1.9
	12月	0.3	▲1.1	0.5	▲2.4	▲0.7	▲2.0	▲1.6	1.9	3.3	1.2	▲1.8	▲0.6
25年	1月	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2月	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注) 25年1月、2月は、製造工業生産予測調査の数値

○10-12月期は前期比+1.3%の増産

経済産業省から公表された24年12月の鉱工業生産は前月比+0.3%と、ほぼ事前予想通りとなった。2か月ぶりの上昇となったが、上昇は全15業種のうち5業種に留まり、戻りとしては弱い。経済産業省による基調判断は「一進一退」に据え置かれた。

12月の生産を業種別にみると、生産用機械が前月比+2.9%（寄与度+0.26%pt）、電子部品・デバイスが同+2.1%（寄与度+0.12%pt）、業務用機械工業が同+6.2%（寄与度+0.11%pt）となりプラス寄与した。一方で、自動車工業が同▲1.7%（寄与度▲0.22%pt）と、11月（同▲4.3%）に続いて2か月連続の低下となった。また、前月に運搬装置を中心に大きく上昇していた汎用機械が同▲2.3%（寄与度▲0.13%pt）と低下し、反動減が出るかたちとなった。

この結果、10-12月期は前期比+1.3%と、2四半期ぶりの増産となった。ただし、鉱工業生産は23年、24年にかけて四半期ごとに増産と減産を繰り返しており、停滞感が強い状況が続いている。後述の通り、25年1月の生産計画も強くないことから、足元では弱含んだ推移となっている。

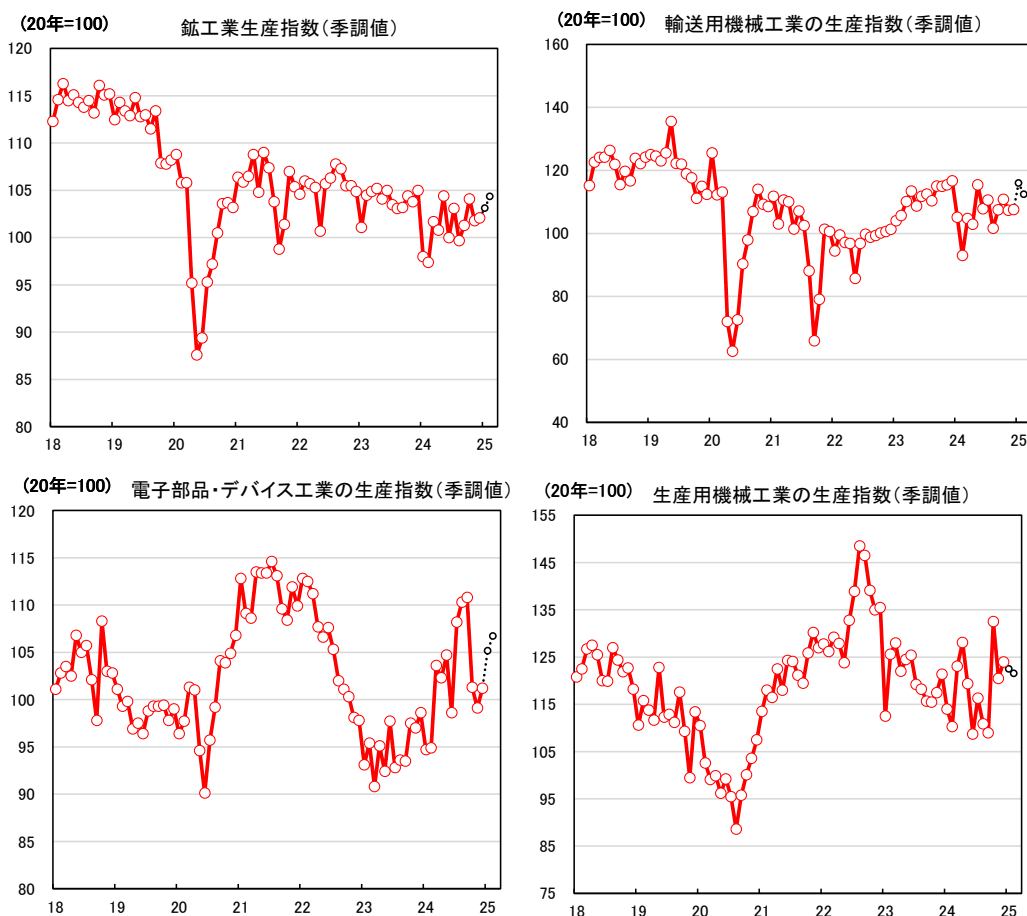
10-12月期の生産を業種別内訳にみると、生産用機械（同+12.1%、寄与度+1.00%pt）と自動車工業（同+3.5%、寄与度+0.45%pt）で上昇のほとんどを説明する。生産用機械は、前期に▲5.6%と落ち込んでいた反動に加えて、半導体製造装置などが押し上げた。もっとも、同時に公表された生産予測指数によると、生産用機械は25年1月（前月比▲1.2%）、2月（同▲0.8%）と低下が見込まれており、10-12月期は一時的な押し上げに留まった可能性が高い。また、自動車工業は2四半期ぶりの上昇となったが、台風等による工場停止の影響を受けた前期の落ち込み（▲4.1%）を取り戻すには至らなかった。

また、10-12月期は電子部品・デバイスが同▲8.4%（寄与度▲0.53%pt）と、5四半期ぶりの低下に転じた。世界的な半導体需要の回復を背景に生産を牽引していたが、このところASEAN向け半導体輸出が減速しており、10-12月期の生産を抑制したとみられる。もっとも、生産予測指数では、25年1月（前月比+3.9%）、2月（+1.5%）と再び上昇が見込まれている。また、24年12月には、熊本における半導体製造工場で量産が開始された報道があったが、この影響が現時点で統計に十分に反映されていない可能性にも留意しておきたい。先行きの生産計画や、年間補正のタイミングで生産指数が上振れる可能性がある点には注意が必要だ。

○ 1-3月期も一進一退の動きが予想される

同時に公表された製造工業予測指数は、25年1月が前月比+1.0%、2月が同+1.2%とそれぞれ上昇が見込まれた。もっとも、予測指数には上振れバイアスがあるため、このバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値でみると、1月は同▲2.1%の低下となる。12月が小幅のプラスに留まった後、1月もマイナスが予想され、足元の生産には弱含みがみられる。

輸出部門も低調な推移が続く中、上述した通り10-12月期を牽引した生産用機械で反動減が出る可能性が高いことや、世界的なIT需要の一服によって電子部品・デバイスの減速感も強まることを考えると、先行きの鉱工業生産も一進一退の動きが続くとみられる。上述したように、年内に予定される熊本の半導体製造工場の稼働が現時点で十分に反映されていない可能性も考慮すれば、非連続的な急上昇には注意が必要となるが、こうした要因を除けば生産の牽引役が不在の中で、停滞感の強い動きが続くだろう。



(出所)経済産業省「鉱工業指数」(注)黒波線部分(25年1月、2月)は、製造工業生産予測調査の数値で先延ばししたもの。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。